

しんらん同人

NO, 505

6月号

二〇一三年六月一日発行 郵便番号171-0052  
 発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺  
 TEL 3 6950 7 828 FAX 3 6950 6 820  
 E-MAIL SEIGANJI@RESET.J.P

## 生きるか死ぬか

「大病だから死ぬとは限らない。元気だから死なないとも言われない。いつかは死ぬに決まっているのだから、前もってよくよく考える事はない。今日一日を楽しく生活すればいい」と思っている人は多い。

死ぬとは考えていない者にとっては、死の話など、馬鹿らしいことだが、病気の者や目前に死を抱えている者にとっては、これほど大きな問題はない。死を超越してゆくか、死を安らかに受け止める心が願わしくなるのではないだろうか。



## 降魔成道

釈尊が悪魔の妨害を退けて悟りを開き  
 仏陀となられた場面を菩提樹などで象徴的に表した図

患うことがあると、これで死ぬのではなからうか、心細く思う事も煩惱のなし業です」と、親鸞聖人は仰せられた。そして「今まで迷いつづけてきた、この苦悩のふるさとは、捨てる事が難しく、まだ生まれた事のないお浄土を恋しいとは思わないとは、なんと激しい煩惱なのだろうか」と、その愚かさに泣いておられる。

その愚かさゆえに、煩惱激しきゆえに、如来はこの私を放したまわず、しっかりと抱き取ってくださいる大悲を信じ、やがて浄土に生まれさせていただく事以外に

うか。

「少しでも

はない。

どうしても生きぬくのだという力  
 みもなく、自らの業のままに、如来に計らわれて、よきように生かされる。死にたくないと言う思いをこまかして、さとりすましてしているのでもなく、死を考えまいと逃げるのでもない。死ぬのではなからうかという不安のまま、お浄土に参りたいとも思わぬままに、そのまんまがお慈悲の中なのである。凡愚のままでも、お慈悲に乗托させていただくのである。

死ぬときがきたら死ねばいいと悟り済ますのではない。死にたくないまんまが、お浄土に行く道を一步一步ゆましていただくのである。

死を恐れず平然と死んでいくためにお念仏するのではない。死ぬときはどうであらうとかまわさない、今、この身このままが如来のみ手のなかにあるのである。必ず浄土に生まれさせずにはおかないという如来の本願なのだから、必ず浄土に生まれさせていただくのである。

少しの計らいもいらぬ、計らいは何のやくにもたたない。

ただ南無阿弥陀仏である。



### 誇ることなく

浄土真宗はお言葉どおり文字も知らぬ田舎者のための教えです。だがそれらの人々によつて泥中より清浄無垢の蓮華の花が開くように、人間蓮華として地中より湧き出した力強い信仰があります。一例を妙好人・庄松から伺ってみましょう。

ある人が庄松に尋ねました。

「私は普段仏さまのご恩など少しも感じないが、お心がいただけたら喜びの日暮らしが出来るでしょうか」

「おらはそんな難しいことは知らぬ」

そしてご本尊を指さしていいました。

「あの方に聞け、おらは今夜食べようとと思ってオジヤを炊いて来たが、猫が食わにやよいが、説教がはようすめばよいがと思つていただけだ。おまえはおまえの持つたままの姿で暮らせ、おらはおらだけで暮らすそんな事聞いて何する」

臨終を迎えた病人が平素の信心もどこへやら、行く末を案じてばかりいますので、思いあまつた同行が庄松を呼んで聞かせてもらおうとしました。招きに応じてやって来た庄松は病人など少しも気にせず、お内仏でお念仏ばかり称えています。呼んだ人は気掛かりではありません。

「来てもらったのは病人を安心させようと思うからだ、早く聞かせてくれないか」

庄松はいいました。

「おらが本願作つたでなし、助けてやるものを持つていてでなし、なにも聞かせるものはない。おら

やおまえを浄土へ生まれさせずば正覚を取らぬとお誓い下さつた仏がいまここにござるではないか。

これでも不足なのか」

このような妙好人の逸話は数限りなく語り伝えられています。ではその原動力はなんだつたのでしょうか。

「仏法者は法の威力にてなくばなるべからず。されば仏法をば学匠物知りはいいたてず、ただ一文不知の身も信ある人は仏智を加えらるる故に、仏力にて候間、人が信をとるなり。この故に聖教読みとて、しかも我はと思わん人の仏法をいい立てたることなし。ただなに知らねども信心定得の人は仏よりいわせらるるあいだ、人が信を取る」

「聖教読みの仏法を申し立てたることはなく候。尼入道の類いの尊や有難やと申され候を聞いては人が信を取る。なにも知らねども仏の加備力のゆえに尼入道などの喜ばるるを聞いては、人が信を取るなり。聖教を讀めども名聞が先に立ちて、心

に仏法なきゆえに人の信用なきなり」

蓮如上人が申されたとおおり、はからの気持ちがなくつたとおき、おのずから 仏智が加えられて念仏の世界が開かれます。

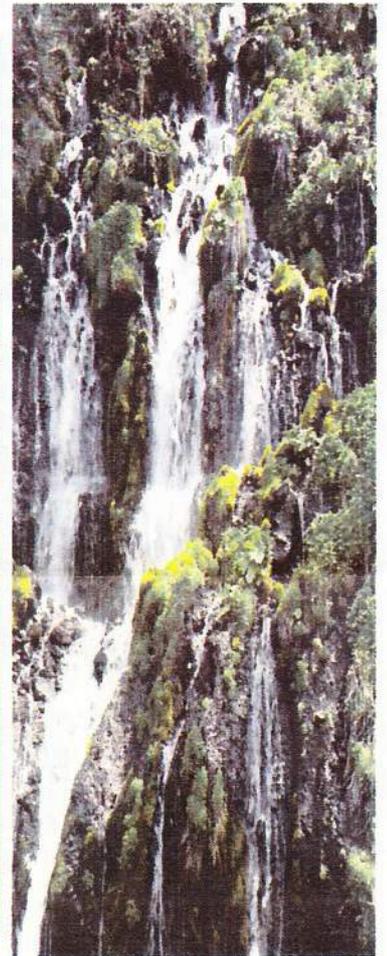
仏のお誓いの中では教養のあるなしは問題ではありません。すべての方が教えに会い、救うというののお慈悲を聞かせていただくばかりです。従つて浄土真宗は一部の人がいうような詰まらぬ教えではなく優れています。それがはつきり答えられなかつたり、負けるのがいやだから色々と争つたりしたことあつたようでした。

親鸞聖人は申されます。

「ですから、さまざまな仏の教えを誇る必要はありません。念仏以外の善を行う人を誇る必要もありません。またこの念仏をすする人を憎み誇る人さえも憎み誇る人があつてはなりません。むしろ憐み、いとおしむ心を持つ必要がありません」

誓願寺収支計算書 平成24年4月～平成25年3月

支出の部	金額	収入の部	金額
1. 経常支出		1. 経常収入	
1、宗教活動支出		1、宗教活動収入	
(1) 儀式設備費	3,668,763	(1) 布施収入	12,958,000
(2) 教化育成費	871,461	(2) 負担金会費収入	1,845,000
(3) 宗務諸費	546,580	(3) 墓地等収入	1,246,000
(4) 維持管理費	3,768,726	(4) 寄付金収入	0
(5) 寺務費	5,358,385	計	16,049,000
計	14,213,915	2、資産収入	
2、資産支出		(1) 資産運用収入	8,082
資産取得支出	3,539,550	(2) 資産処分収入	0
		計	8,082
3、財務支出		3、財務収入	
(1) 借入金	3,096,997	(1) 借入金収入	3,810,000
(2) 未払い金支出	0	(2) 未払金収入	0
計	3,096,997	計	3,810,000
4、その他支出	0	4、その他収入	
雑支出	0	雑収入	577,576
経常支出計	20,850,462	経常収入計	20,444,658
支出合計	20,850,462	収入合計	20,444,658
当期資金剰余金	-405,804		



釈尚文 独り言

仏説父母恩重經には父の慈恩と母の悲恩について様々な事項に分けて述べられておりますが、私自身忘れられない思い出があります。

今から十五年程前、長女が東京の大学に入学し福岡を離れた五月の夕暮れ時、台所で夕食の支度をしながら家内が言った独り言。

「かおりちゃんの声が聞きたい人。：：ハイ」

「かおりちゃんに電話したい人。：：ハイ」

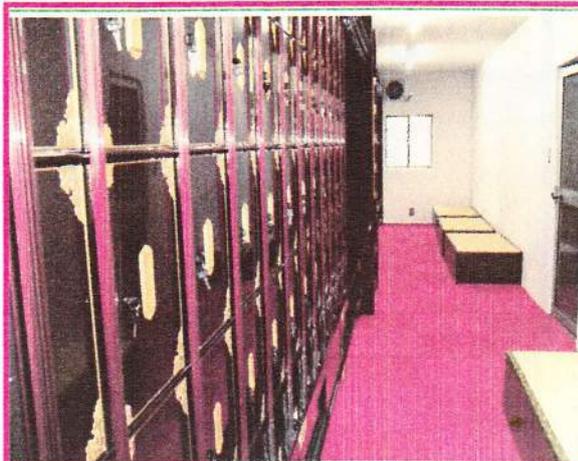
会社人であった私は、電話は必要な事を手短に、ましてや、私用の長距離電話には、無駄だ無駄だと口うるさく言っていたのでしよう。男は男の仕事を一生懸命していれば良いと家庭の世話から逃げていた私は大いに反省した次第です。

今は通信手段が発達し、便利さの陰になって、高額の使用料も当たり前前になったようですが、気持ちのこもった通話をしたいものです。

新しい納骨仏壇

今、生きているうちに、あなたの納骨仏壇を用意しませんか。核家族となり、親子の関係もだんだん変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。

そこで新しい納骨仏壇を作りました。これはお寺の方で永代に供養できる一人用の納骨壇です。一基三十万円です。百基作りました、場所等は先着順です。管理費は一年一万二千元です。早めにお申し込みください。



# 編集後記

◎尚之君が来てくれて、何でも積極的に  
 に行う事にした。来月は、お盆、今  
 まではあまり各家庭にお参りする事  
 はすくなくあったが、今年からは遠く  
 でも出かける事にした。是非お申し  
 込みください。電話で結構です。

◎七月二日、前坊守英子の一周忌を  
 迎える。前日に私は順天堂病院で心  
 臓の手術を受ける予定。六月の二十  
 三日(日)に祥月命日法座と合わせて  
 一周忌法要を行う予定。お時間のあ  
 る方は是非お参りください。

◎心臓の病状がはつきりせず、ぐず  
 ぐずしていたが、六月二十四日に市  
 谷の順天堂病院に入院、七月一日に  
 手術することになった。坊守が亡く

なったのが、七月二日、何だか  
 繋がりがあつたような気がする。  
 だから早めに一周忌をするよう  
 にした。

◎永代経法要を久しぶりに勤め  
 ることにした。永代経本来の意  
 味は永代祠堂経という事で、聞  
 法道場をみんな守っていくと  
 いう事、現代は、亡くなった  
 方々のご恩を偲び永代にお寺で  
 供養していただくということだ  
 ある。

本堂内陣に永代経をお願いし  
 た人と法名が掛け軸に書かれ、  
 朝晩読経を行つてゐる。わが身  
 はいつまで生きられるか、いざ  
 という準備も必要なのもして  
 ない。

◎三代目のナナ(猫)も非常に  
 利口、リキとも仲良し、夜  
 はくつついて休んでい  
 る。

◎リキが利口なのか、お  
 となしなので、ナナをす  
 ぐ受け入れ二匹で遊んで  
 いる。ナナは絶対の外に  
 は出さない。前のナナと  
 よく似ている。

## 六月御法座案内

九日(日) 午前十時 聖典講座

正午 健康相談

講師 佐藤公彦医師

なかよしくらぶ

十六日(日) 午前十時

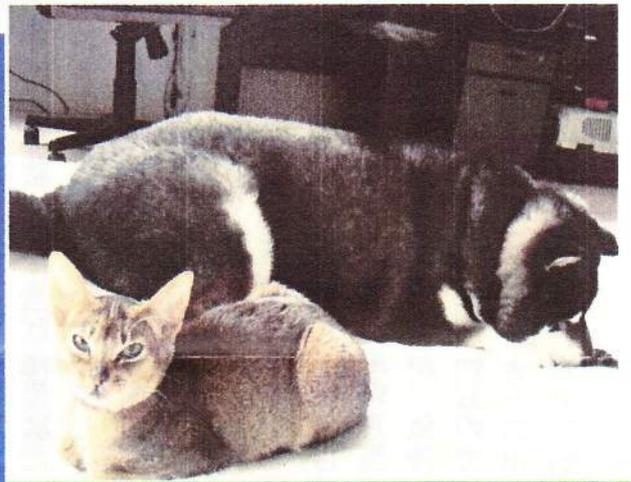
十八日(火) 十一時

聖典講座

歎異抄の会

廿三日(日) 午前十時

## 平成二十五年六月回忌法要



慈照院 釈尼普賢山口ふさ	91	1989	三日	二十五回忌
釈実乗	高橋稔	88	2011	四日・三回忌
惠真院 釈圓静	中須賀志津乃	1991	六日	二十三回忌
慧眼院 釈俊徳	小出俊治	74	2001	七日・十三回忌
寂照院 釈茂堂	星野 茂	82	1991	十三日・二十三回忌
兜願院 釈雄顕	宇野三雄	85	2007	十四日・七回忌
法徳院 釈英康	朝倉康夫	83	1991	十七日・二十三回忌
愛敬院 釈尼妙澆安田ハツ		1991	二十一日	二十三回忌
釈福慧	岡田福えい	91	1989	二十三日・二十五回忌
願生院 釈普照	香西照雄	70	1987	二十五日・二十七回忌
寂照院 釈尼了恵香西いとえ		95	1991	二十六日・二十三回忌
福德院 釈重鎮	林鎮夫	88	1991	二十六日・二十三回忌